

産経新聞 平成28年1月30日

防災の大切さを学んで

安佐南区の中学でジュニア検定

子供たちの防災意識を高めてもらおうと、広島市安佐南区の市立城山北中学校で29日、「ジュニア防災検定」（防災検定協会主催、内閣府など後援）が行われた。同校は平成26年8月の土砂災害で親族を亡くした生徒も在籍しており、生徒らは真剣な表情で取り組んでいた。

同協会の浜口和久事務局長による講義には、2年生161人が参加。浜口事務局長は「学校の勉強の延長線上に防災の知識が詰まっている」と強調。阪神大震災で死亡した約8割が家屋の倒壊などによる圧死・窒息死である事を指摘し、「家具の固定などできることから早速取り組んでほしい」と訴えた。生徒はその後、「ジュニア防災検定」の上級を受検し、災害発生に関連する基礎知識などの問題を解いた。

松島範明校長は「日頃から防災に対する意識を高め、生徒には支えられる立場から支える立場になることを期待している」と話し、生徒会長の竹下咲音さん（14）は「学んだことを基に家族としっかり話し合い、これからの生活に役立てたい」と話した。